

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

(都道府県 熊 本 県)

I. 学校の概要 (平成15年4月現在)

益 城 町 立 木 山 中 学 校 (学力充実フロンティアスクール)						
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教 員 数
学 級 数	3	3	4	3	13	27
生 徒 数	118	93	140	7	358	

II. 研究の概要

1. 研究主題

「豊かな人間性や社会性を育む主体的な学習の創造」
～基礎学力の充実を図り、主体的に学習する生徒の育成～

2. 研究内容与方法

(1)実施学年・教科

全学年・全領域 (人間性や社会性の育成はそれぞれの学年に応じ教育課程の全領域で行うべきことであり、基礎学力の充実は、単独教科のみでは図れないため。)

(2)年次ごとの計画

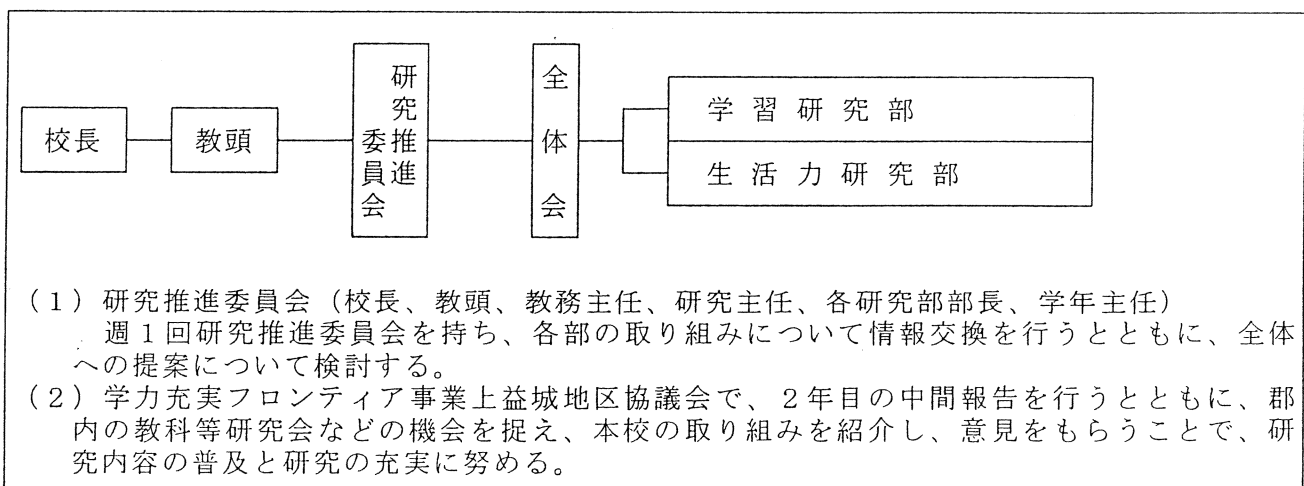
平成14年度	<p>(1) テーマ 「豊かな人間性や社会性を育む主体的な学習の創造」 ～基礎学力 (基礎・基本) の充実を図り、意欲的に学習する生徒の育成～</p> <p>(2) 研究の見通し (仮説)</p> <p>①学習の過程を系統化し分かりやすい授業展開を行うとともに、少人数指導やT・T指導などきめ細やかな指導を行えば、基礎学力が身につく、適切な評価を加えることで、教科等に関する興味・関心・意欲もわき、さらに基礎学力が高まるであろう。</p> <p>②時間を守ること、役割を果たすこと、よりよい人間関係をつくり他と協力することなどの生活力をつけることで、学習効果を高めるとともに、社会で生きるための人間性、社会性を育てることができるであろう。</p> <p>③総合的な学習を通して学習態度 (学び方・調べ方) を育成し適切な評価をすることにより、生徒に自信と意欲が育ち、生徒が自ら学び、自ら考える力をつけることができるであろう。</p> <p>(3) 研究の内容・方法 「教科授業研究部」「総合的な学習研究部」「生活力研究部」の3つの部会で、研究提案し、全職員で実践した。</p> <p>《教科授業研究部》</p> <p>①授業の基本形づくり ②基礎基本を定着させるための工夫を盛り込んだ展開案づくり ③自学プリント (ステップアッププリント) 作成</p> <p>《総合的な学習研究部》</p> <p>①評価観点及び年間計画の作成 ②ポートフォリオ評価の工夫</p> <p>《生活力研究部》</p> <p>③グループエンカウンターを用いた道徳、学活の実施マニュアル作成</p>
--------	---

平成	<p>(1) テーマ 「豊かな人間性や社会性を育む主体的な学習の創造」 ～基礎学力の充実を図り、主体的に活動する生徒の育成～</p> <p>(2) 研究の見通し (仮説)</p>
----	---

成 15 年 度	<p>①より効果的な学習時間と学習環境を工夫し、T Tや少人数指導に加えて個に応じた補充指導を行うことで、基礎学力が定着し、学習への意欲も高まるであろう。</p> <p>②生活の各場面で人間関係づくりを積極的に図りスキルを身につけさせるとともに、基本的な生活習慣を徹底させることで、自ら目的を持ち他と協調しながら主体的に生きる生徒を育成することができるであろう。</p> <p>(3) 研究の内容・方法 「学習研究部」「生活力研究部」に分かれ、仮説①②を検証できる取り組みを行った。学習研究部において昨年度は、基礎基本の定着にのみ着目していたが、本年は情意的領域にも目を向け、生徒の学習意欲が高まるような授業展開や学習環境づくりの研究を進めた。</p> <p>また、生活力部会では、昨年度取り組んだ構成的グループエンカウンターの実践を深めるとともに、生徒の心に響く道徳の授業開発を行い、担任のみでなく全職員で実践することで、その有効性を検証するとともに、複数方向から生徒の心に語りかける取り組みを行った。</p>
-------------------	--

平 成 16 年 度	<p>(1) テーマ 「豊かな人間性や社会性を育む主体的な学習の創造」 ～基礎学力の充実を図り、主体的に生きる生徒の育成～</p> <p>(2) 研究の見通し(仮説) ①より効果的な学習時間と学習環境を工夫し、T Tや少人数指導に加えて個に応じた補充指導・発展的指導を行うことで、基礎学力が充実し、学習への意欲も高まるであろう。</p> <p>②生活の各場面で人間関係づくりを積極的に図るスキルを身につけさせるとともに、基本的な生活習慣を徹底させることで、自ら目的を持ち他と協調しながら主体的に生きる生徒を育成することができるであろう。</p> <p>③基礎学力と生活力を身につけ、目的意識を持って主体的に生活することで、互いに支え合い、高め合える自治的集団を育成することができるであろう。</p> <p>(3) 研究の内容・方法 平成15年度の成果と課題を踏まえて、仮説③まで検証できる取り組みを行う。平成15年度までに作成した「学習意欲を喚起する授業展開パターン」と「基礎学力をつける授業展開パターン」の実践を重ね、精選していく。また、少人数指導のメリットを最大限にいかせるような指導法の工夫を行う。基礎学力を充実させるための個に応じた指導として、平成15年度は「補充」に力を入れてきた。平成16年度は、主体的な学びを育てるためにも、学力の情意的側面により着目し、必修・選択授業を含めて、「発展的な内容」も、計画的に組み入れていきたい。</p> <p>掲示物をはじめとする校内の生活環境、学級担任複数制による複数教師の語りかけから、生徒自身に「自分は何を考え、どう行動するのか。どう生きるのか。」を常に問いかけながら、生徒自らが考え、動くための学力、生活力の向上を図りたい。同時に、基本的な生活習慣や基本的な学習習慣など、主体的な活動・自治的活動の土台となる部分は、徹底して指導していきたいと考えている。</p>
------------------------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ. 平成15年度の研究成果及び今後の課題

(1) 成果

- ①平成15年4月の標準学力テストの結果を見ると、多くの教科で学力向上が見られる。
(標準学力検査の偏差値<3年生の場合> 国語=+4.2、社会=+1.6、理科=+0.9、英語=+4.3ポイントの向上)
- ②補充を中心に取り組んだチャレンジタイム(選択授業)の有効性について、約73%(全学年平均)の生徒が「有効である・まあまあ有効である」ととらえ、調査テストの結果を見ると、約70%の正答率となった。
- ③授業中の学習、家庭学習、主体的な学びに関わるアンケートの結果、昨年とったアンケートに比べ、ほとんどの質問項目で改善傾向が見られた。
- ④人間関係で悩んだり、心身の不調から、保健室を訪れる生徒の数が減少した。

(2) 課題

- ①作成した授業展開パターンの有効性の検証。
- ②補充および発展を意図した個に応じた指導の計画的な実践と、そのための時間の確保。
- ③生徒の意欲や主体性の変容を客観的にとらえるための評価方法の確立。
- ④基本的な生活習慣と基本的な学習習慣のさらなる徹底。
- ⑤生徒の興味関心をひくだけでなく、価値観を高める道徳学活の授業づくり。

Ⅳ. 学力把握のための学校としての取組

(1) 標準学力検査の実施(年1回、4月当初)

(2) ゆうチャレンジ(熊本県教育課程定着状況調査)の実施

- 結果の分析により、全体として補充が必要な領域・内容を確認し、指導計画の中に補充を位置づけるとともに、毎時間の授業の中でも、補充のための手だてを講じる。

(3) 定期テストによる基礎的・基本的事項の定着率調査

- 定期テストでは、基礎的・基本的事項を多く(8割以上)出題し、その正答率を確認する。

(4) チャレンジタイム(選択教科)の定着テスト

- 補充を目的としている5教科(国社数理英)のチャレンジタイムで学習した内容を、前半後半の2回に分けて、テストする。その結果と、生徒にとったチャレンジタイムのアンケートによって、選択教科の持ち方、内容について検討している。

(5) まいチャレンジテストの受験者数や結果等から、生徒の学力状況及び学習への意欲、興味・関心をみていきたい。

Ⅴ. フロントイアスクールとしての研究成果の普及

(1) 学力充実フロントイア事業上益城地区協議会で研究2年目の中間報告を行う予定である。

日時：3月1日(月)

場所：御船町カルチャーセンター

対象：上益城郡内、各町村教育長、各小・中学校校長、各PTA代表者

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～15学級 | <input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |